

# 出荷情報の確定時刻遵守による荷待ち時間の削減 東京都

## 1. 実施者の概要

発荷主企業：吉野運送株式会社(本社:東京都足立区)  
 吉野石膏株式会社(石膏ボード等製造・販売)の  
 100%物流子会社  
 運送事業者：菊池運輸株式会社 千葉支店  
 五島運輸倉庫株式会社 本社営業所(東京)、  
 千葉営業所  
 運送事業者ア 千葉営業所  
 荷種：石膏ボード

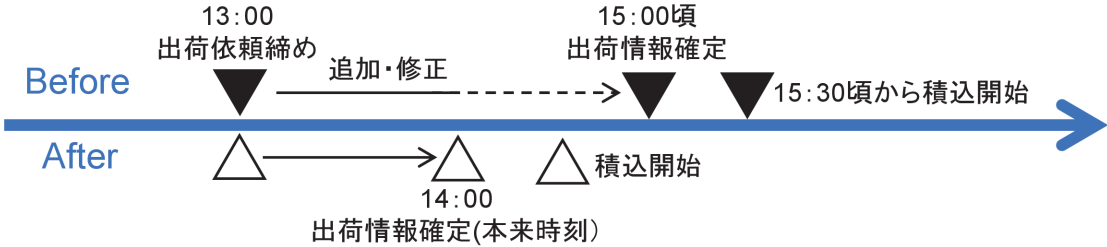


## 2. 事業概要

- 吉野石膏(株)千葉工場(千葉県袖ヶ浦市)から、ストックポイントである東京工場(東京都足立区)までの運行において、積込時と荷下ろし時ともに荷待ち時間が発生していた。この結果、拘束時間が原則の13時間を超える運行があった。この改善のため以下の2種類の実証実験を行った。

### 実験1: 出荷情報の確定時刻遵守による荷待ち時間の削減

- 出荷情報の追加・修正依頼の受付について、本来の締切時刻を超えて対応することが常態化していたことから情報確定が遅れ、千葉工場で宵積みする車両に荷待ちが発生していた。実験1ではこの改善のため、追加・修正依頼の締切時刻を本来の締切時間厳守とする実験を行った。



### 実験2: 東京工場の積下ろし場所の追加確保による荷待ち時間の削減

- 東京工場の積下ろし場所3カ所のうち、特定顧客商品専用の保管場所とされ、一般品の積下ろしに利用できない場所(1カ所)があった。実験2では、これを一般品にも開放し、一般品の積下ろし場所としても使えるようにする実験を行った。



- 実験1は、千葉工場における平均積込終了時刻を1時間02分早めることができた。
- 実験2は成立しなかったが、今後環境が整えば、東京工場の荷下ろしにおける荷待ち時間の削減と、構内混雑による事故リスクの軽減効果等を期待することができる。

05 雑工業品

### 3. 課題

- 吉野石膏(株)千葉工場(千葉県袖ヶ浦市)から、ストックポイントである東京工場(東京都足立区)までの運行において、積込時と荷下ろし時ともに荷待ち時間が発生していた。それぞれの原因は以下の通りであった。
  - 積込時 : 出荷情報締め時刻(13時)の後、吉野石膏の社内規定時刻(14時)を約1時間超えて追加・修正の受付対応をしていたため、積込開始が遅くなっていた。
  - 荷下ろし時 : 東京工場の積下ろし場所3カのうち1カ所が、ほぼ特定顧客専用在庫スペースとなっており、一般品の積下ろしが2カ所しか使えなかった。

### 4. 事業内容

#### 実験1

##### 出荷情報の確定時刻遵守による荷待ち時間の削減

- 翌日の東京工場行き第1便の千葉工場での宵積について、出荷締め後に営業部門から入ってくる追加・修正の受付締切を、社内規定時刻どおりの14時として、積込み終了時刻の変化を検証した。

#### 実験2

##### 積下ろし場所の追加確保による荷待ち時間の削減

- 特定顧客専用となっていた「NT倉庫」を、一般品の保管場所とし、「NT倉庫前」を積下ろし場所として使えるようにすることで、荷待ち時間、荷役時間の改善効果を検証した。

### 5. 結果

- 平均積込み終了時刻を、従来の17時39分から、1時間02分早めることができた。宵積みのため、終業時刻がほぼ同等に早まることにつながる。
- 宵積みを行わないため他社と積込み時間帯が異なっていた車両が、他社と積込み時間帯が重なるようになり荷待ちが発生した

- 実験期間中、NT倉庫前で荷下ろした実験対象車両がなかったため、実験は成立しなかった。
- 荷下ろしできなかった主な理由は、倉庫内奥半分が工事中であったことと、特定顧客在庫で長期滞留品があり、一般品の在庫スペースが十分に取れず入荷ができなかったこと等のため。今後これらは解消され、既存の積下ろし場所と同等に機能する見込み。

### 6. 荷主企業・運送事業者のメリット

- メリット
  - 荷主のメリットとしては、元請運送事業者として、実運送事業者の拘束時間の短縮を実現できた。
  - 運送事業者のメリットとしては、平均積込終了時刻が1時間02分早まり、同時間分の拘束時間短縮効果が得られた。
- デメリット
  - 吉野石膏の営業部門(真の荷主)は14時以降の出荷変更・追加ができなくなった(社内規定通り)。
  - 従来、荷待ち時間が相対的に短かった東京からの引き取り便の車両では、実験車両の積込時刻と重なるようになり、荷待ちが発生する可能性が高まった。

- メリット
  - 荷主のメリットとしては、積下ろし場所の増加・分散による構内混雑の緩和、構内事故のリスクの軽減が期待できる。
  - 運送事業者のメリットとしては、東京工場行き便全体として荷待ち時間の改善が期待できる。
  - 東京工場周辺での待機車両行列が緩和される。
- デメリット
  - 荷主は、特定顧客の在庫を移動させる必要があった。
  - 運送事業者は東京工場での荷下ろし後、再び千葉工場で宵積を行うため、トータルとしての拘束時間の短縮は実験1の施策の効果次第となる。

### 7. 結果に結びついたポイント／課題

- 出荷情報の確定時間の遵守(社内業務規定の遵守)に関して、吉野石膏の営業部門(真の荷主)の理解と協力が得られたことが実験1の結果を得られたポイントであった。今後は販売先(顧客企業)やエンドユーザー(消費者)の理解・協力を求めていく必要もある。
- 出荷情報の確定時間の遵守については、今回東京工場行きについてのみ実験を行ったが、他の配送センターについても、便の集中・混雑を考慮しつつ荷待ちさせないオーダー締切りルールを検討する必要がある。
- トラックドライバーの労働時間の短縮は、今後の物流戦力確保に向けた不可避の課題であり、荷主等と協力・調整のもと全国展開に向けた取り組みが期待される。